

令和2年度 学校自己評価表 (年度当初)

鳥取県立倉吉総合産業高等学校

教育目標	1 誠実な心を育て、たくましく生きる力を養い、個性豊かな人間形成を図る。 2 実践的な学習をとおして、創造する喜びを体験するとともに自主・自律の態度を養う。 3 様々な教育活動をおして、他人を思いやり、友情を育み、さらに心身ともに健全な態度を養う。 4 望ましい勤労観・職業観を育て、地域産業を支える人材を育成するとともに地域の発展に貢献する。
------	---

重点目標	1 心身ともにすこやかな生徒の育成 2 夢や希望をかなえられる学校づくり 3 地域・地元へ愛され、信頼される学校づくり 4 専門教育の推進
------	--

年度当初				
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策
1 心身ともにすこやかな生徒の育成	基本的な生活習慣の確立とマナーの徹底【生活部】	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度、『遅刻』と『身だしなみ』については、意識を高くもって取り組み、概ね達成できたと思うが、『あいさつ』については十分できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『あいさつ』の大切さを理解し、授業の前後や校舎内での様々な場所で、教職員、生徒同士、来校者に対し、明るく気持ちのよい、心のこもったあいさつができる。 ・家庭や地域、様々な場所や場面でも、心のこもったあいさつができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SHRや集会であいさつの大切さを伝える。 ・生徒会執行部と連携して、生徒が主体となった『あいさつ運動』に取り組む。 ・科と連携して、『あいさつ運動』に取り組む。(現在、ビジネス科が週2回実施) ・部活動との連携。 ・まずは、教職員から発信する。
	部活動・生徒会活動の奨励【生徒部】	<ul style="list-style-type: none"> ・4月末時点での部活動加入率は、1年95.6% 2年96.5% 33年90.1%。未加入者のうち2割は生徒会執行部に所属。課外活動を行っていない生徒は、全体の4.6%という状況。 ・新型コロナウイルスの影響で、各種大会の中止・練習制限等の状況があり、とりわけ3年生のモチベーションの低下が懸念される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒自らが、主体的に生徒会活動や部活動にかかわっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍を踏まえて、新しいスタイルの学校行事を企画・運営することで、生徒の自主性・創造性を育む。 ・未加入者の部活動への加入促進を図るとともに、練習計画・部室管理等を通して自主自立の精神を涵養する。
2 夢や希望をかなえられる学校づくり	進路指導の充実【進路部】	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な進路目標を定めているが、目標のために何をどのように取り組めば良いか計画できない生徒が多い。また、基礎学力の定着や文章力、表現力が十分身につけていない。 ・就職希望者支援体制についてはできているが、進路指導に関しては、個別指導による部分が多い。特に4年制大学への進路指導については大学固有の入試制度の研究など支援体制の整備が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的に進路行事を実施し、キャリア教育が充実している。 ・学習指導委員会による進学支援体制が確立している。 ・年度内就職内定率100%となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路意識を持たせるため、進路講演会、進路学習会、進路説明会、進路LHR等を実施、職業観・勤労観の育成に努める。 ・大学入試に関する情報収集をおこない、入試改革に対応した指導を、学習指導委員会で提案していく。 ・進路部と学年団・各科との連携を密にするとともに、学力分析や指導方法について検討していく。 ・12月から2年生の進路指導に取り組み、2月学年末考査後には具体的な進路実現に向けて行動できるよう、計画的に個別に指導していく。 ・新型コロナウイルス感染症に対応するため、職場見学、オープンキャンパス、試験に向け、ICTを活用していく。 ・定着指導・求人依頼・企業開拓のため、進路部を中心に県内の企業を積極的に訪問し企業や産業界の情報を収集し、共有する。
	将来のスペシャリストの育成(資格・検定の取得やインターンシップ)【進路部】	<ul style="list-style-type: none"> ・進路部で資格・検定を推進している。各科目で目標としている資格・検定に挑戦している。 ・多くの生徒がインターンシップ・デュアルシステムをとおして正しい職業観を養っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資格取得に意欲的に取り組んでいる。 ・低学年からの進路意識の向上とインターンシップ・デュアルシステムの充実により、勤労観・職業観が育成されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資格取得・上級資格取得のための計画的で充実した補習を実施する。資格試験の情報提供を行う。 ・多様な進路選択を可能にするためにも資格取得にチャレンジするように促す。 ・インターンシップ・ビジネス実習の事前・事後指導を徹底・充実する。
	進路に対応できる学力の定着【教務部】	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な学習規律は身につけているが、生徒の基礎学力や学習意欲の差が大きく、学習習慣が身につけていない生徒が多い。 ・授業時間数の偏りが生じている。 ・出張等による自習時間は減ってきてはいるが、まだ少ないとは言えない。 ・進路に応じた選択科目の履修ができるようにしているが、まだ十分とは言えない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習習慣が定着し、基礎学力の向上が図られている。 ・生徒全員の家庭学習時間が平日1時間以上、休日2時間以上となっている。 ・授業時間数が確保され、自習時間が削減されている。 ・進路に応じた選択科目が適切に履修されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎力診断テストの学習状況調査を活用し、家庭学習の充実を図る。 ・各教科で課題の出し方を工夫し、学校全体として家庭学習を促進し、習慣化するように取り組む。 ・朝テスト(2・3年)を実施し、進路に応じた基礎学力の定着を図る。 ・時間割の入れ替えや授業の売り買いを積極的にを行い、授業が自習時間とならないように取り組む。
	思考力・判断力の向上【教務部】	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒は落ち着いてはいるが、反面、主体的に学習に取り組んだり、自ら考え判断し、自発的に行動したりすることができる生徒が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力や判断力の育成のために、課題探究的な学習や対話的な学習活動が実践されている。 ・達成感や自己肯定感を持った生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業公開や授業互見、教職員研修会をとおして学び合いを促進し、授業改革を行う。 ・新学習指導要領に対応した新教育課程の検討をはじめ。 ・学校生活の中で、生徒が活躍できる機会を増やす。
地域とともにある学校づくり	(学校運営協議会)【管理職】	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでも、各学科を中心に学校と地域がつながる事業が行われている。 ・学校運営協議会は、委員を選出し、今年度から開始することとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の仕組みを生かして、地域とともにある学校づくりが進められている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を共有し、課題の解決を図ったり、教育活動充実のための方策を検討する。
	地域への情報発信(積極的な広報活動)【総務部】	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの記事更新が頻繁に行われ、各科の学習活動や部活動の大会の状況が発信されていた。 ・ビジネス科が作成した学校カレンダーを、学校外の企業や中学校等に配り、情報発信に努めているが、十分な部数がなく、全ての関係団体に配れていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事、部活動の大会成績などの記事がホームページに随時掲載されており、本校の活動の様子が地域に知れ渡っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス科が作成する学校カレンダーの部数を増やし、他団体に対しても配れるようにする。 ・学校行事については、積極的に総務部から各担当にホームページへの掲載を依頼したり、ライブ配信によって生徒の生の様子を発信する。また、新聞社やテレビ局などマスコミにも適宜情報提供する。

年度当初							
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策			
3 地域・地元 に愛され、信頼される学校 づくり	地域・産業界との交流 【各学科】	M	・企業名は知っているが、その企業の業務内容などについては知らない生徒が多い。 ・企業見学やインターンシップなどを実施するが、十分な理解には至っていない。	・企業見学、インターンシップ、社会人講師等と おとして、自分の希望に関係する企業について 業務内容などを理解している。 ・就職に向けて意識が変化し、資格取得の意義 などについて理解している。	・企業見学、インターンシップ、社会人講師等で 産業界での取り組みや意識を知る機会を設ける。 。		
		E	・鳥取県電業協会中部支部との共同作業で、倉 吉交流プラザにイルミネーションを取り付け、地 域に貢献した。 ・「電気をとおして福祉を考える」の活動を地元 民生委員の方と電業協会中部支部とで連携を し、地域に貢献した。	・イルミネーションの取り付けなど、地域産業と の交流をが図られている。 ・地域の家庭に出向き、奉仕活動をするこ とで地域住民との交流が図られている。	・鳥取県電業協会中部支部との意見交換会 でイルミネーション設置について、アイ デアの提案等を行う。 ・「電気をとおして福祉を考える」の活 動前後で民生委員、電業協会、教職員・ 生徒との意見交換を行い連携をとる。		
		C	・くらそうサロンでは、町内放送などで参加者 を募り、参加される高齢者が増加した。 ・くらそうやは「食のみやこ」「上北条まつり」 に参加し、地域との交流を行った。	・「チャレンジショップくらそうや」「くら そうサロン」「くらそうビジネスセ ミナー」をとおして、地域との 連携が深められている。	・「チャレンジショップくらそうや」「くら そうサロン」「くらそうビジネスセ ミナー」をとおして、新型コロナ ウイルス感染症の感染予防に配慮し ながら、学習内容の充実に努める。		
		D	・小学校や福祉施設と交流を行っている。交流 を意欲的に行おうとはしているが、参加して くださる方にどう楽しんで参加してもらうか を考えて計画するまでには至っていない。	・交流する相手方のことを考えて計画を 立てられるようになる。 ・異年齢の方々と交流することにより コミュニケーション能力が高まっている。	・福祉施設の方や社会人講師の方々の 意見を伺いながら、交流の計画を 行う。 ・学習した知識や技術をいかし、生徒 が主体的に行動できるように指導する		
	グローバルな人材の育成 (世界規模で考え、地域で行動する人材) 【各学科】	M	・日頃の学習内容は理解できているが、それが 企業活動にどのように反映されているかまで 理解がつかない生徒が多い。 ・地元企業で製造された部品が、どの製品に 組み込まれどのように市場に出回っているか 知らない。	・学習内容が地元で製造した製品を媒体 として世界(社会)につながっていること を理解し、学ぶことの意識が高まっている。	・先輩たちが就職している企業がどの 製品の部品を製造しているかが分かる ような資料を作成する。		
		E	・インターンシップや長期インターンシップ をとおして、就労意識を高め、基本的な技 術を身につけることができた。	・インターンシップを通じて、就労意識 が高まり、キャリア教育の充実が図ら れている。	・事前の安全教育をすることで就労意 識を高める。 ・インターンシップ最終日は各企業 が学校に集まり、生徒に対して一 斉の研修を行う。		
		C	・ビジネス実習、インターンシップ、課題研 究をとおして実社会にかかわり地域の現 状を肌で感じることができた。	・進路意識の向上とインターンシ ップ・デュアルシステムでの充実 により勤労観・職業観が育成され ている。	・地元企業の見学、社会人講師を 導入する。 ・インターンシップ・ビジネス実 習先の企業や事業所の新規開 拓をする。 ・インターンシップ・ビジネス実 習の事前・事後指導を徹底・充 実させる。		
		D	・自分たちの学習したことがどう地域の 産業につながっているのか理解でき ていない生徒が多い。	・地域の産業について理解でき、 自分たちが学習したことの成果 などを地域に発信することができる。	・「企業見学」や「先輩に学ぶ」 を実施する。 ・企業等と協同し、「商品開発」 を行う。		
		4 専門教育 の推進	専門分野の基本的知識・技術をもち、 チャレンジ精神に富んだ人材の育成 【各学科】	M	・学校生活を含めて受け身(指示待ち)の スタンスをとる生徒が多く、多くの 可能性を潰しているように思う。 資格取得においても「合格できな かったら損」など、物事にマイナス の見方をする生徒が多い。	・積極的に資格取得に取り組み、 合格に向けて努力できている。	・難易度を問わず多くの資格を 取得するなかで達成感と自己 肯定感を感じさせ、自己を 高めるためのチャレンジ精神 を養う。
				E	・鳥取県電業協会中部支部とのネット ワーク会議を2回開催し、各事業 を連携して取り組んでいる。また、 同協会に高校生ものづくりコン テストの指導を受け、中国大会 出場権を獲得した。	・高校生ものづくりコンテスト において上位に入賞している。	・鳥取県電業協会中部支部の 指導を受け、技術の向上を図 る。
C	・資格取得に各学年とも積極的に 取り組んでいる。 ・計画的に課外授業を行うことが できた。 ・社会人講師を活用することで、 より専門的な学習に取り組めた。			・上位級資格取得を目標に積極 的に取り組んでいる。 ・資格取得を通して、チャレンジ 精神を養っている。	・長期休業中や放課後に課外 授業を実施する。 ・資格取得に取り組む重要 性を生徒に理解させるよう 努める。		
D	・意欲に個人差があり、取り組み 状況がさまざまである。			・意欲的に取り組むことができ、 学習したことを検定取得や コンテストへの参加に挑戦 することができる。	・検定合格、コンテスト等への 参加を促す。		
5 業務改善 の取組	学科の枠を超えた取組の実践 (総合選択制) 【各学科】	M	・総合選択制を活用し他学科の科目 を積極的に履修するよう働きかけ ができている。(A選択・電気基礎 ・アプリケーション演習)	・将来を見据えた適切な科目 選択ができている。	・選択科目説明において、自 科のカリキュラムでは学べない 内容を総合選択制を活用し 習得するよう指導する。		
		E	・課題研究「くらそうや」の期間 中に「おもちゃの病院」を実施 している。また、スイッチを使った ストラップ「スイッチくん」とい う商品を提供している。	・くらそうやに電気科として「 おもちゃの病院」及び「商品 提供」ができている。	・課題研究「テクニカルボラン ティア」をとおして「おもちゃ の病院」を行う。 ・電気工学部と連携して「商品 提供」を行う。		
		C	・課題研究「くらそうや」をと おして、学科間連携が進んだ。 電気科:「おもちゃの病院」 生活デザイン科:作品、商品 提供	・課題研究をとおして全学科 での連携を進めている。	・「くらそうや」において他 学科の生徒の販売実習を 検討する。		
		D	・くらそうやへ商品を提供している が、顧客のニーズにあった商品 が作られていない実態がある。	・商品を開発し、くらそうや で生活デザイン科の生徒が 販売をしている。	・ビジネス科と連携し、ニ ーズ調査などを行う。		
5 業務改善 の取組	長時間の時間外勤務者の解消 【管理職】	・教員等の平成29年度比時間外業務 は15.7%削減(42.0時間→35.4 時間)であった。 ・月時間外業務100時間以上は7 人(昨年10人)で14回(昨年 27回)であった。産業医との 面接指導を全員に対して実施 した。 ・本校では部活動指導・大会引 率が時間外業務の多くを占 めている。	・月当たりの時間外業務が、 平成29年度比で25%削減 できている。 ・部活動時間が、平日3時間 程度、休業日4時間程度で 行われている。 ・部活動休養日が、週休日 を含め週当たり1日以上 設定されている。	・週休日振替、勤務の割振の 徹底、年休、夏季休暇等の 取得を推奨する。 ・業務に偏りが生じないよう、 分散化を図るなど組織的に 取り組む。 ・毎月の部活動計画の提出 を徹底し、点検・指導する。			

A [90%以上] B [89~70%] C [69~50%] D [49~30%] E [29%以下]